

新滝ヶ洞溜池水質異常に係る事象収束提言書

東海環状自動車道の建設発生土残土処理場から生じた酸性水・自然由来重金属等を含有する浸出水が、岐阜県可児市久々利柿下入会地先の新滝ヶ洞溜池へと流入し、平成 15 年 4 月 26 日に魚類等の大量死が確認されました。

この事象を受けて、学識経験者並びに地元関係者から構成される「新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会」が、平成 15 年 7 月 24 日に設立され、「国」や「市」実施による水質や生物のモニタリング結果の検討、原因究明、緊急対策の改善要否並びに追加対策の検討、今後の監視体制、恒久対策などの技術的検討を重ね、水質改善に向けて様々な対応を行ってきました。

水質が概ね安定した平成 26 年 5 月 14 日以降は、迂回水路試験運用が開始され、水処理プラントの運用を一時休止しながら水質モニタリングを継続し、別添資料のとおり水質異常の要因となっていた「プラント原水」でも、pH が酸性から中性へと改善が認められています。また、水質異常発生当時に問題となっていた、カドミウムをはじめとする自然由来重金属等も徐々に低減し、迂回水路試験運用後に異常な兆候は認められていません。

そこで、「新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会」としては、引き続き下記の事項に基づきモニタリングを行うことを条件に、本事象に対しては収束にむかっていると判断いたします。

記

【実施事項】

- (1) 現迂回水路の試験放流地点において、久々利川へと自然放流を行う。
- (2) 現迂回水路は試験運用時のものである為、恒久設備へ改修する。
- (3) 大規模な災害が発生した場合は、国土交通省と可児市が協働で盛土の点検作業を実施し、必要に応じて補修を行う。
- (4) 恒久設備の施工完了後は、2 年間のモニタリングを継続実施し、その結果を踏まえ「久々利自治連合会」の合意が得られた場合に、モニタリング調査を終了する。
- (5) モニタリング終了の確認をもって、「新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会」はその任務を終了し、解散する。

令和 2 年 6 月 17 日

新滝ヶ洞溜池の水質異常に係る対策協議会
委員長 佐藤 健

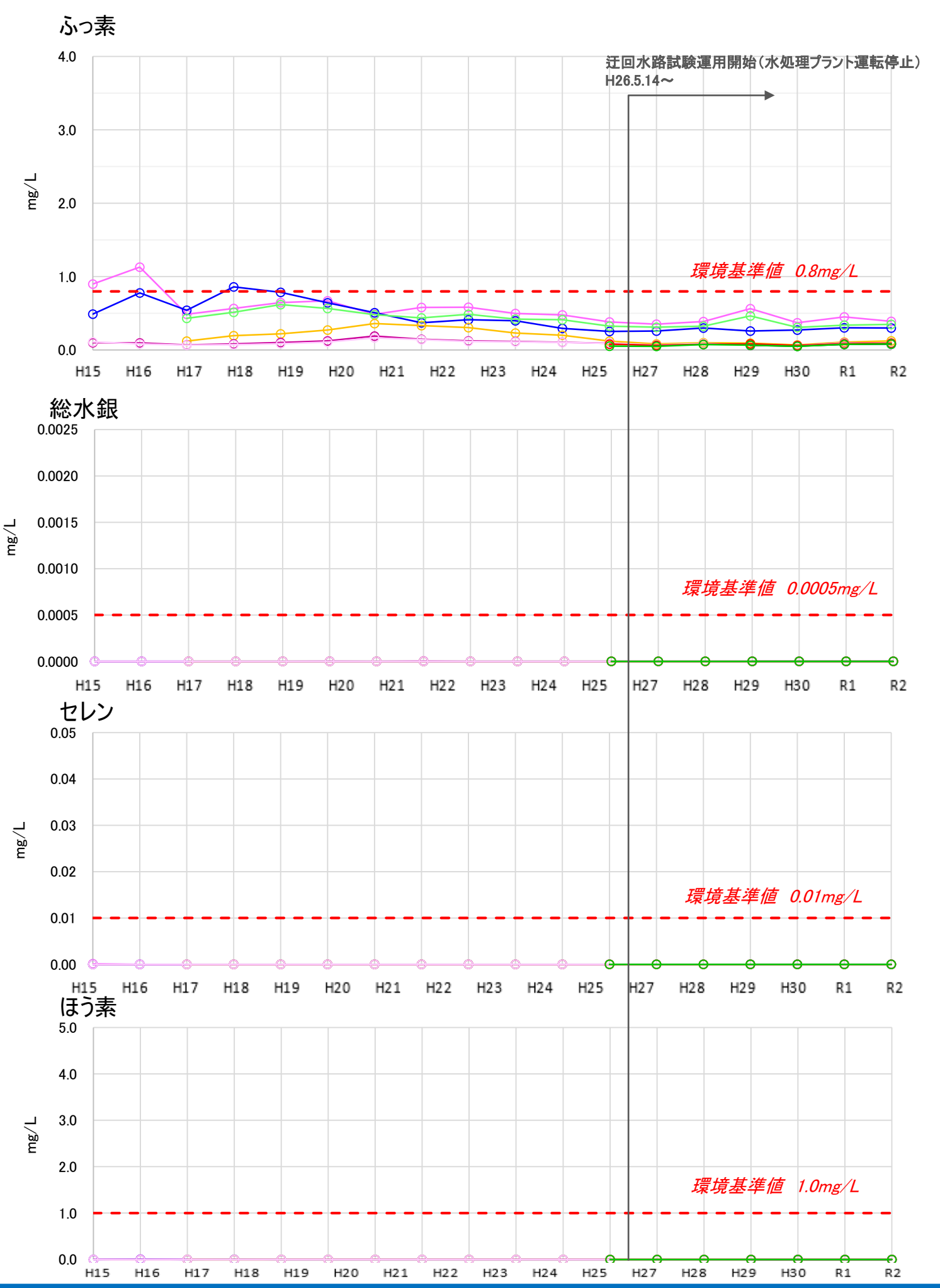
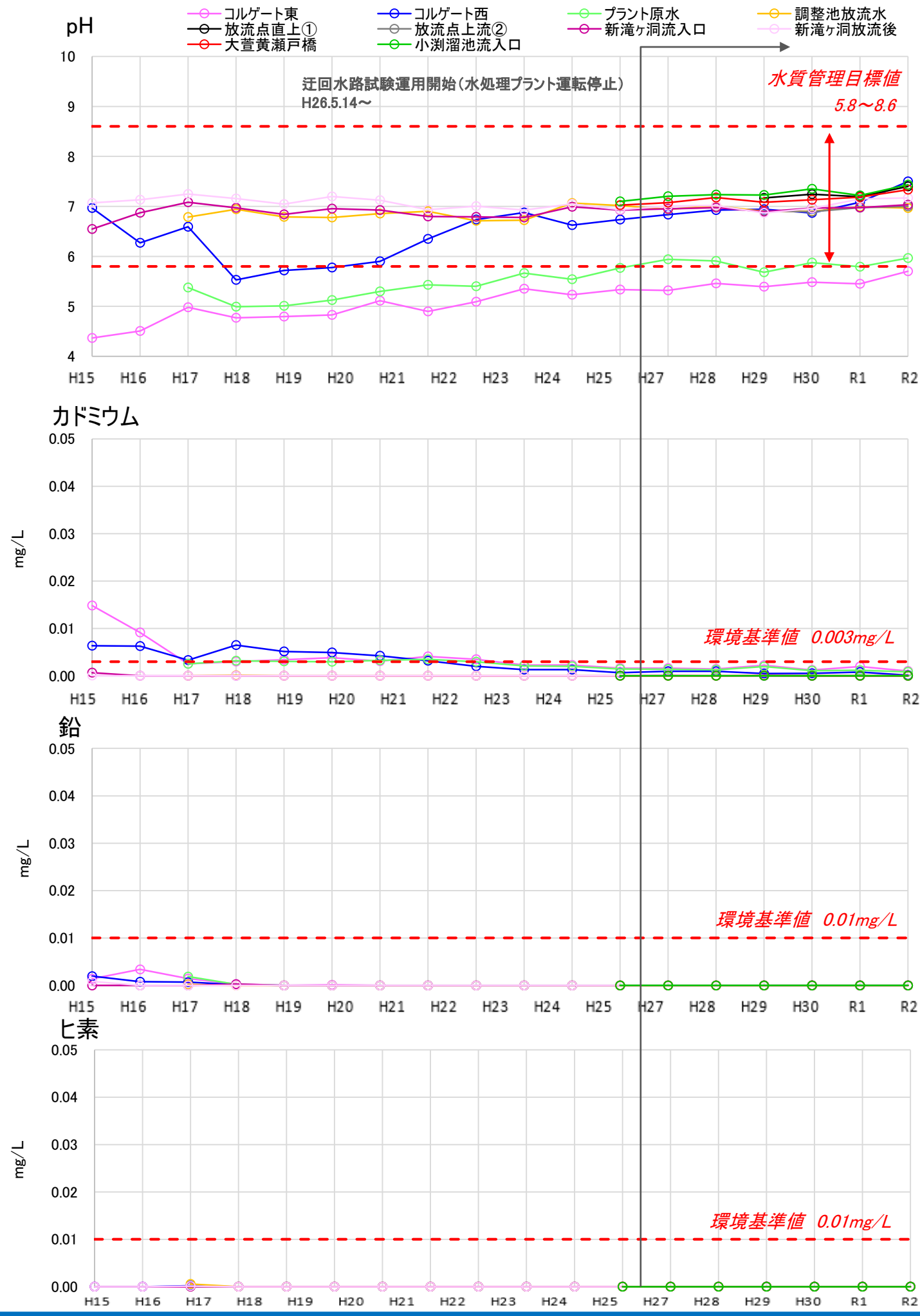
【別添資料】 現在までの水質モニタリング結果



図 水質観測箇所の配置図

現在までの水質モニタリング結果 ■ 全地点年平均値※

※R2の値は1～3月の期間における平均値



- コルゲート東
- コルゲート西
- プラント原水
- 調整池放流水
- 放流点直上①
- 放流点上流②
- 新滝ヶ洞放流後
- 新滝ヶ洞流入口
- 小淵溜池流入口
- 大萱黄瀬戸橋

水質管理目標値 5.8~8.6

環境基準値 0.8mg/L

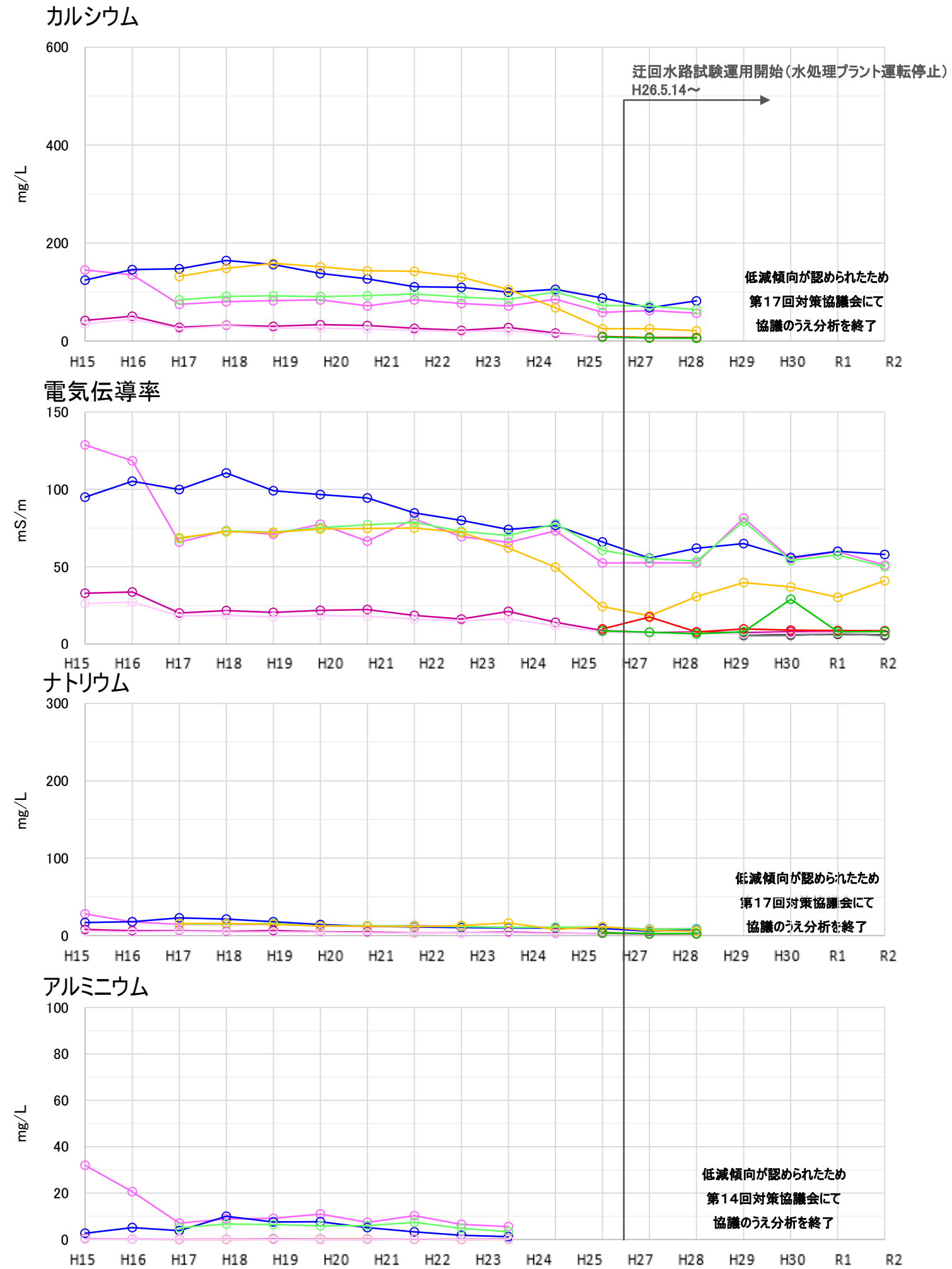
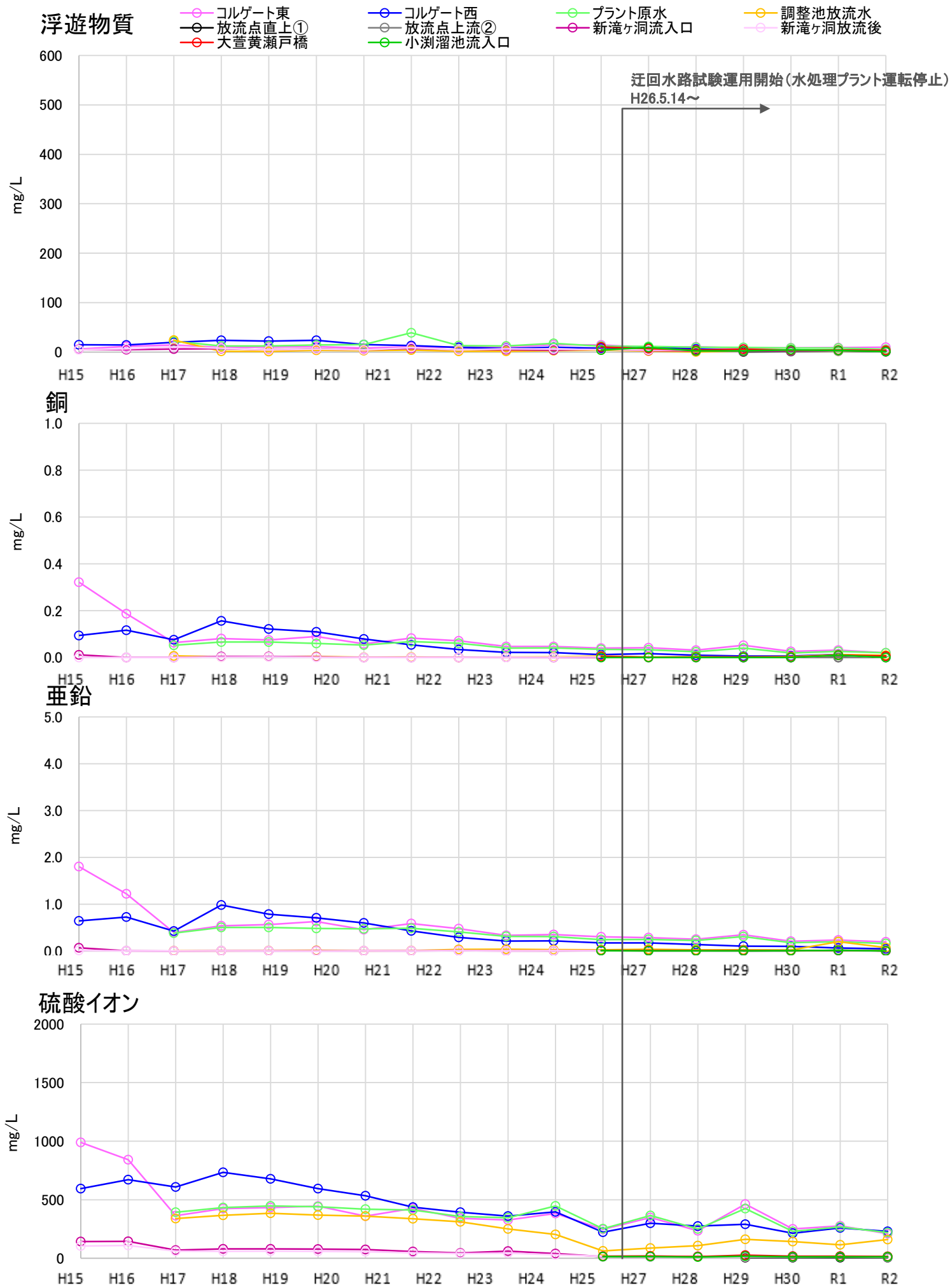
環境基準値 0.0005mg/L

環境基準値 0.01mg/L

環境基準値 1.0mg/L

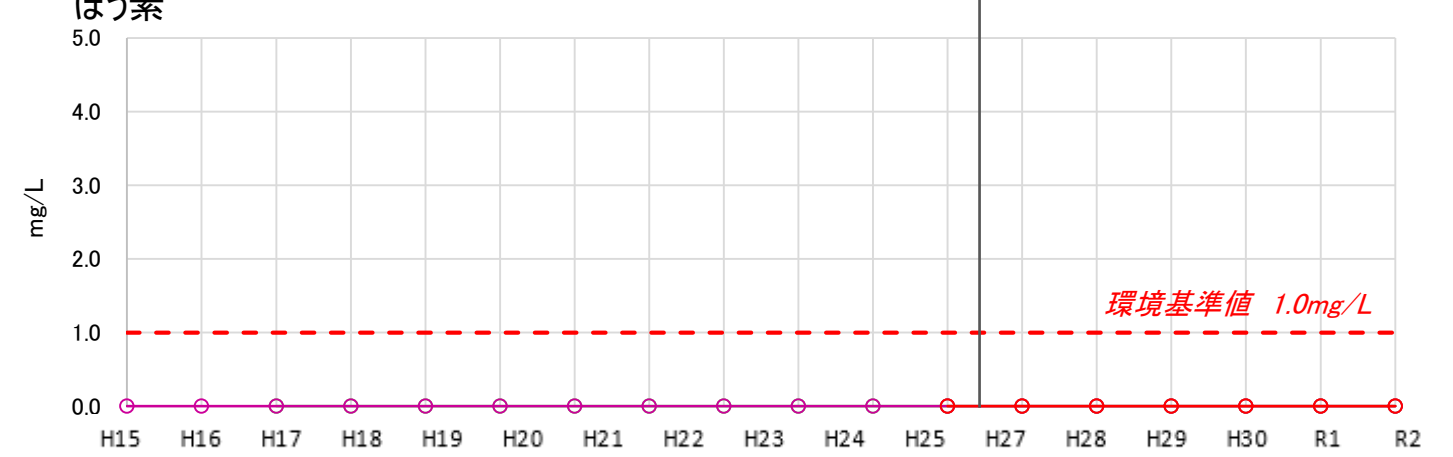
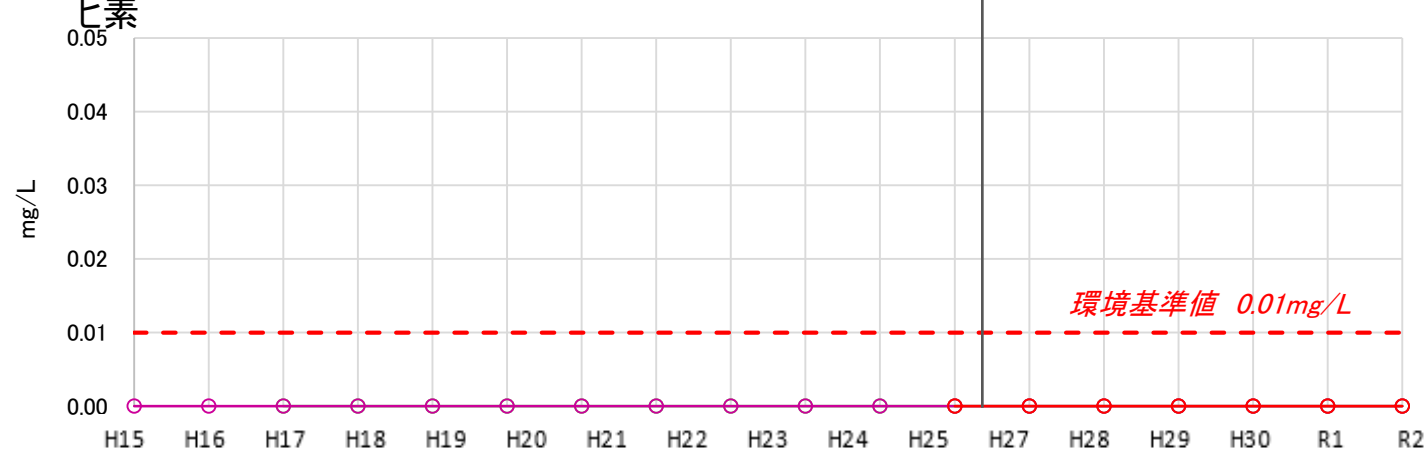
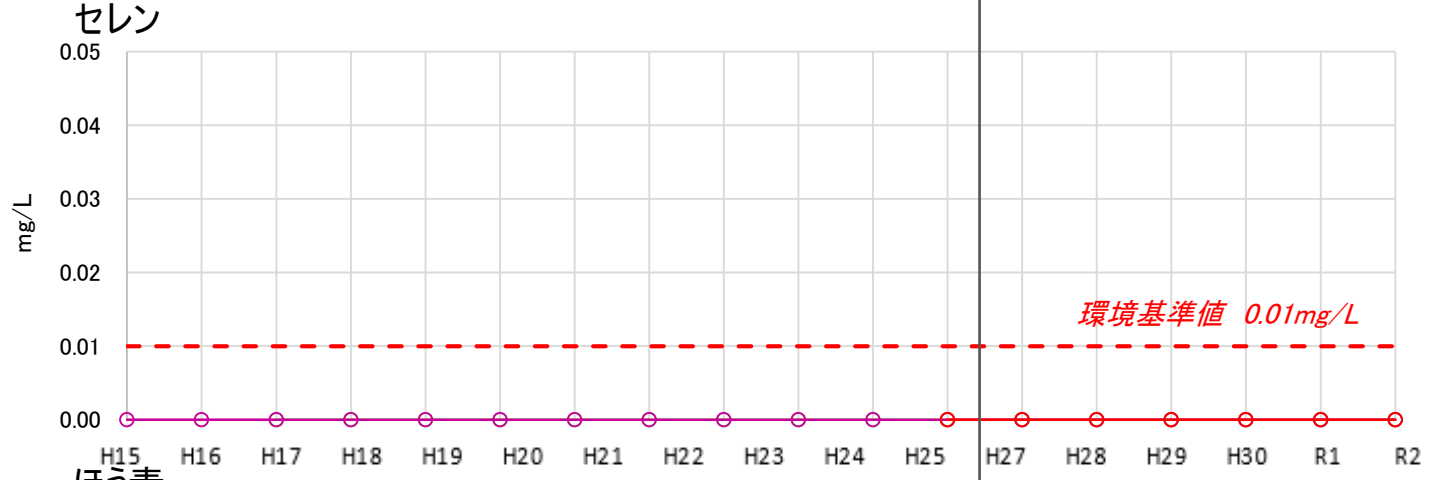
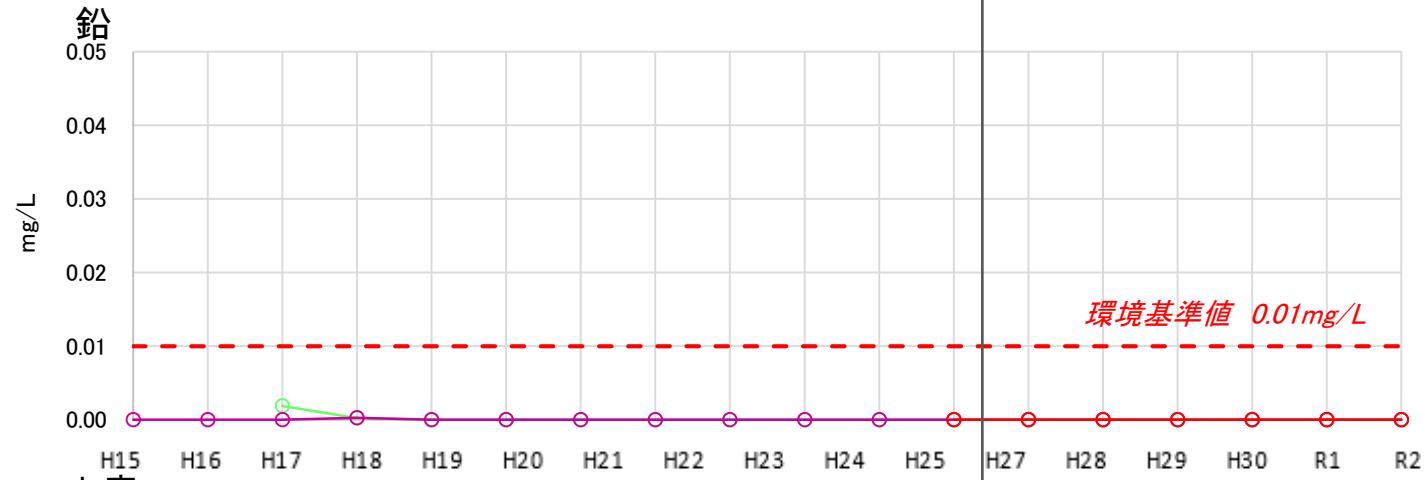
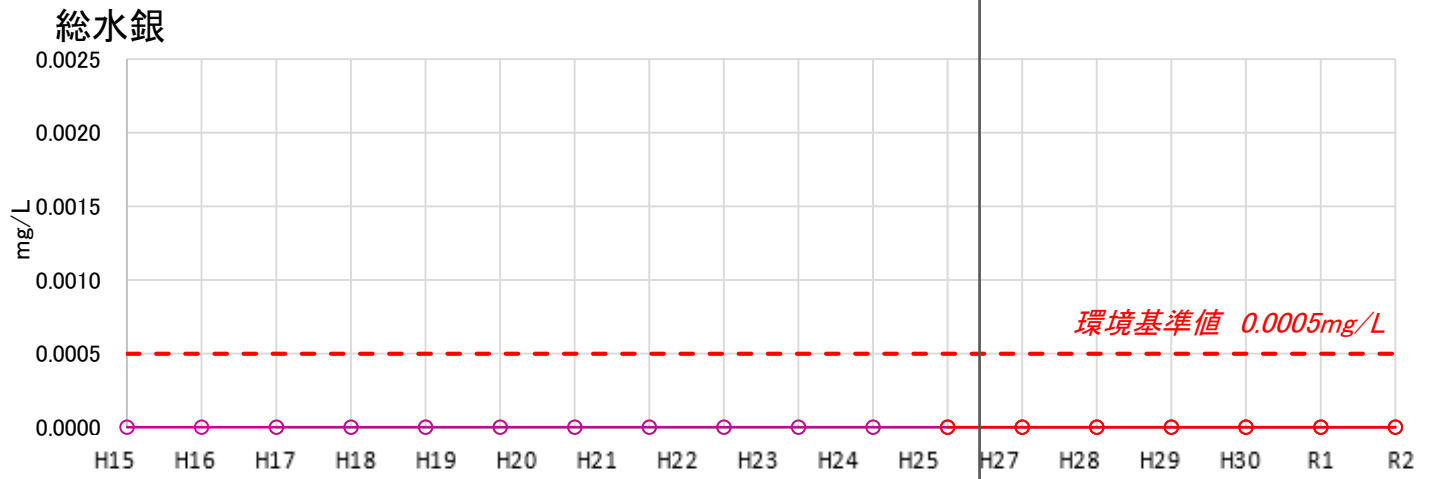
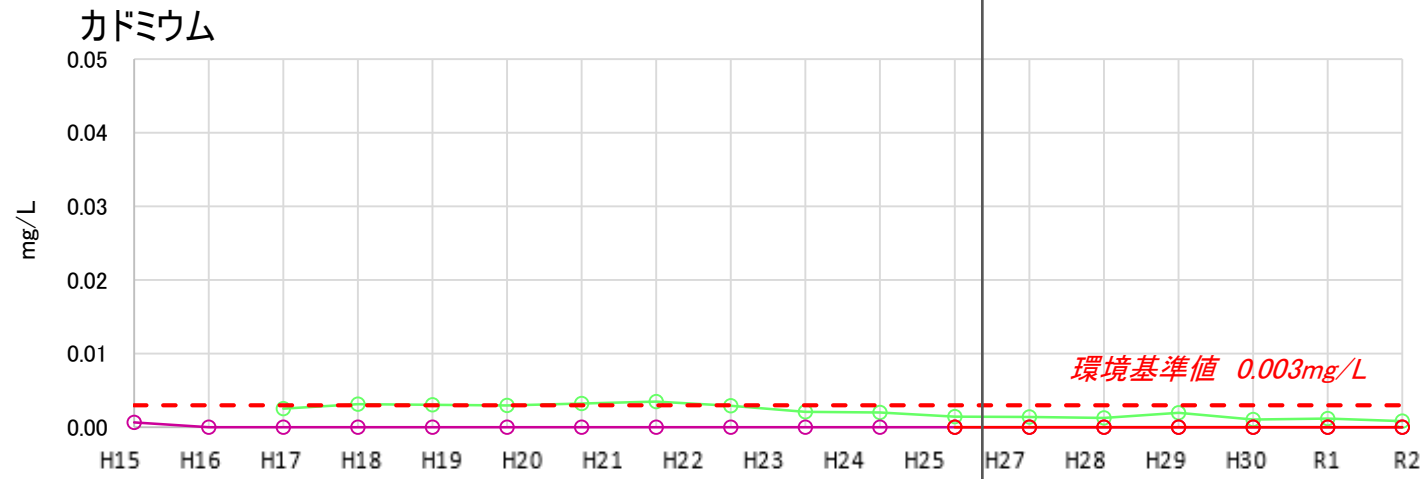
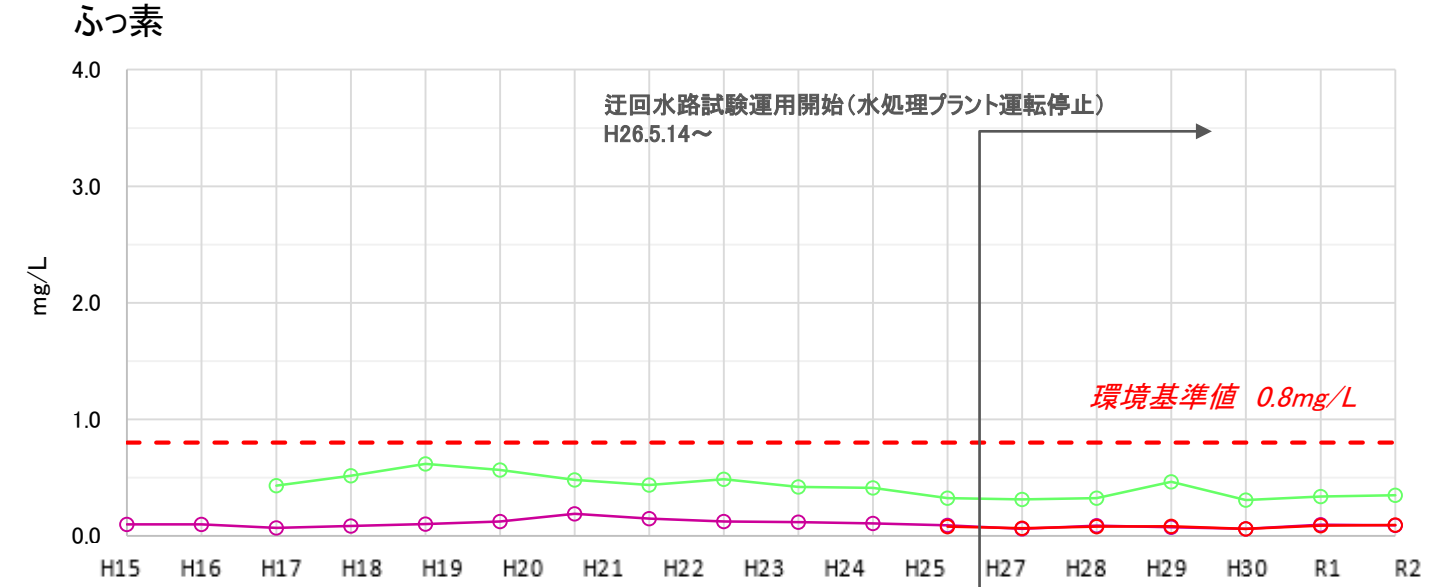
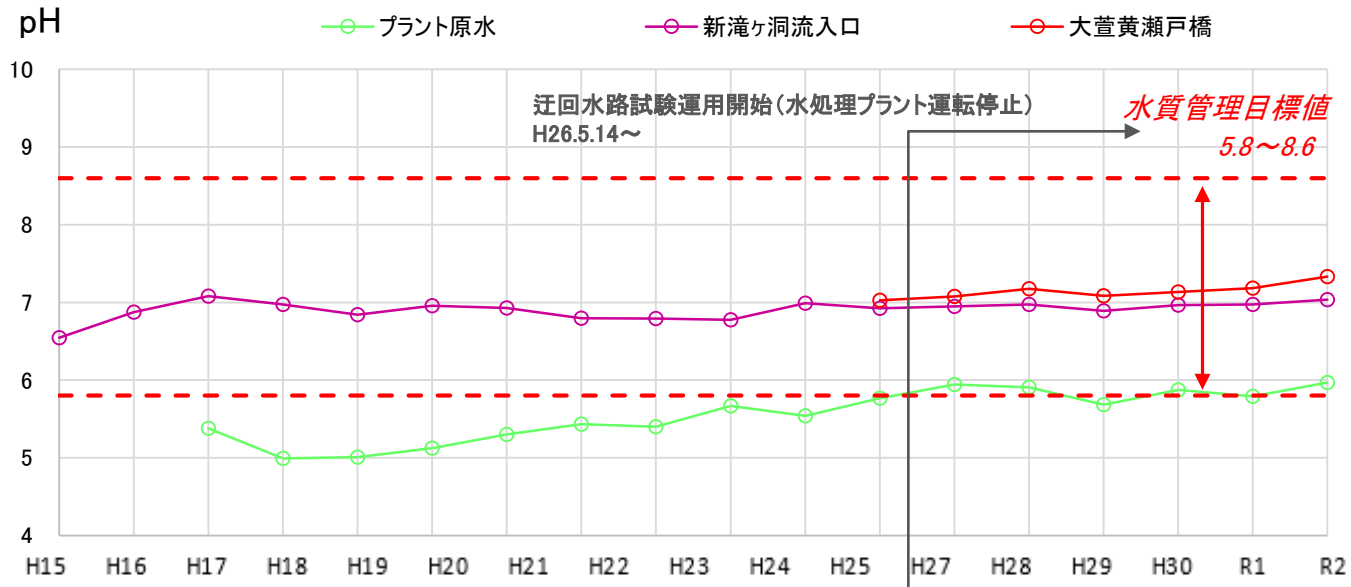
現在までの水質モニタリング結果 ■ 全地点年平均値※

※R2の値は1～3月の期間における平均値



現在までの水質モニタリング結果 ■ 3地点年平均値※

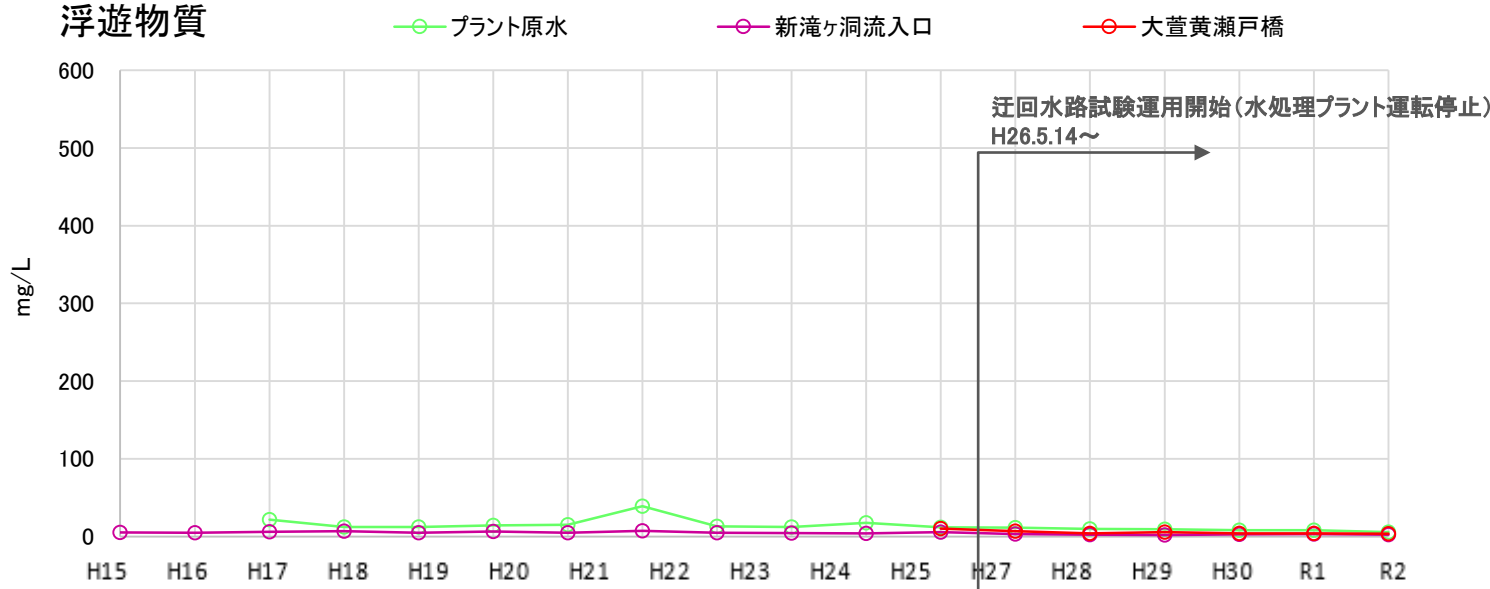
※R2の値は1～3月の期間における平均値



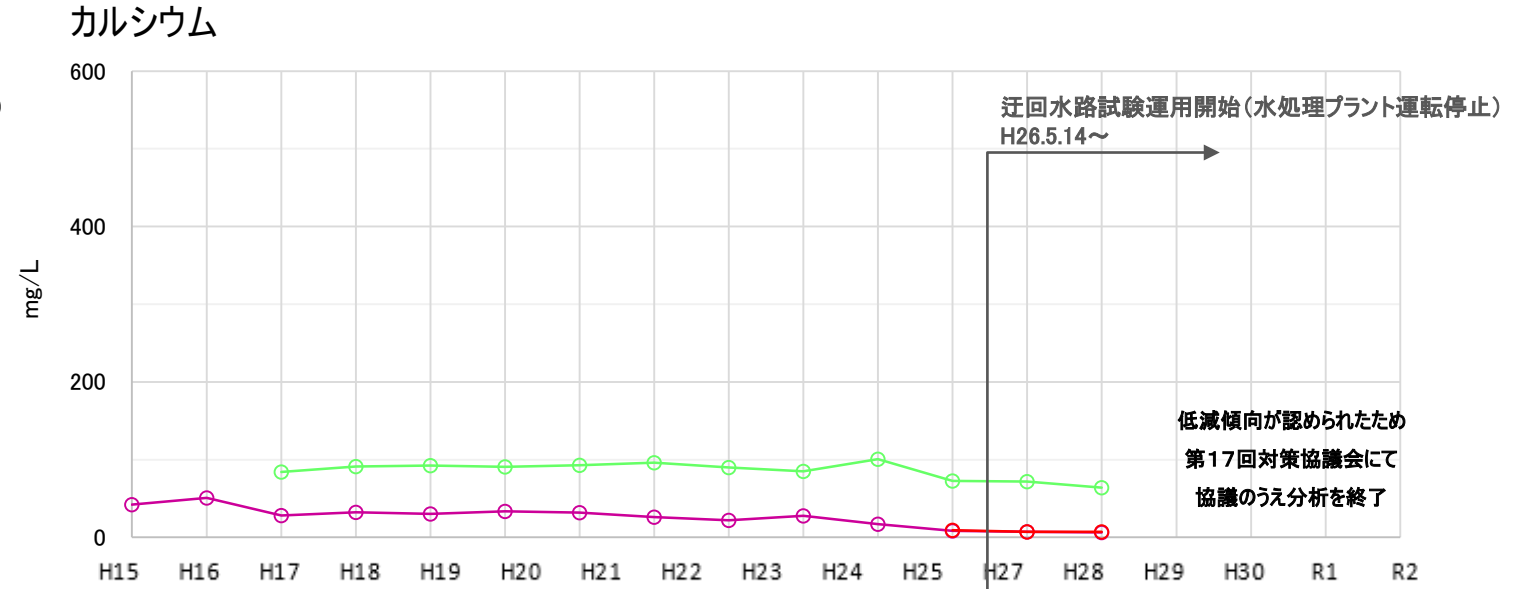
現在までの水質モニタリング結果 ■ 3地点年平均値※

※R2の値は1～3月の期間における平均値

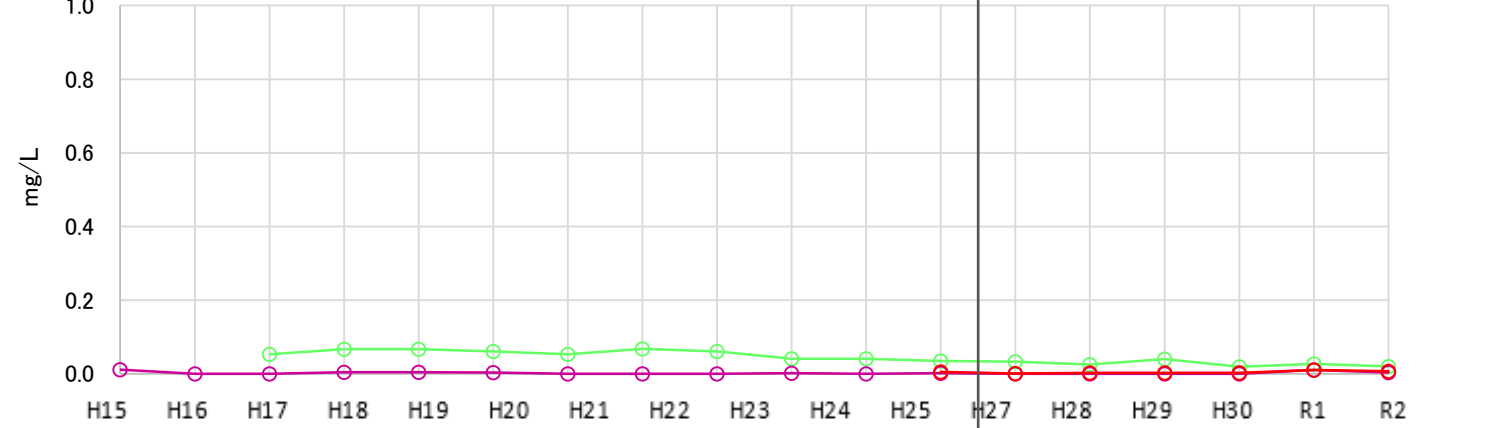
浮遊物質



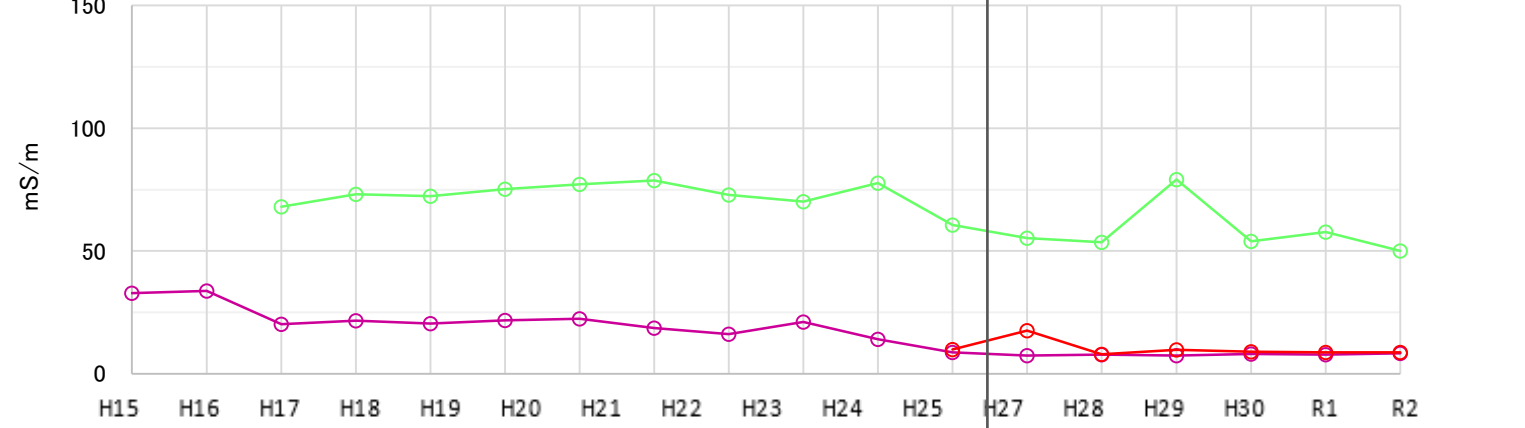
カルシウム



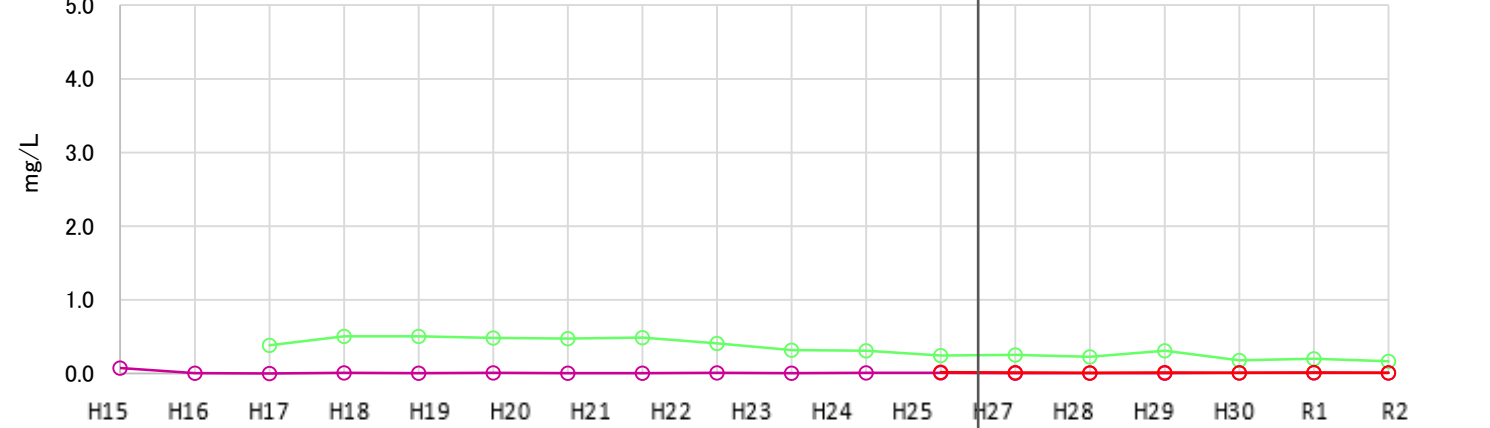
銅



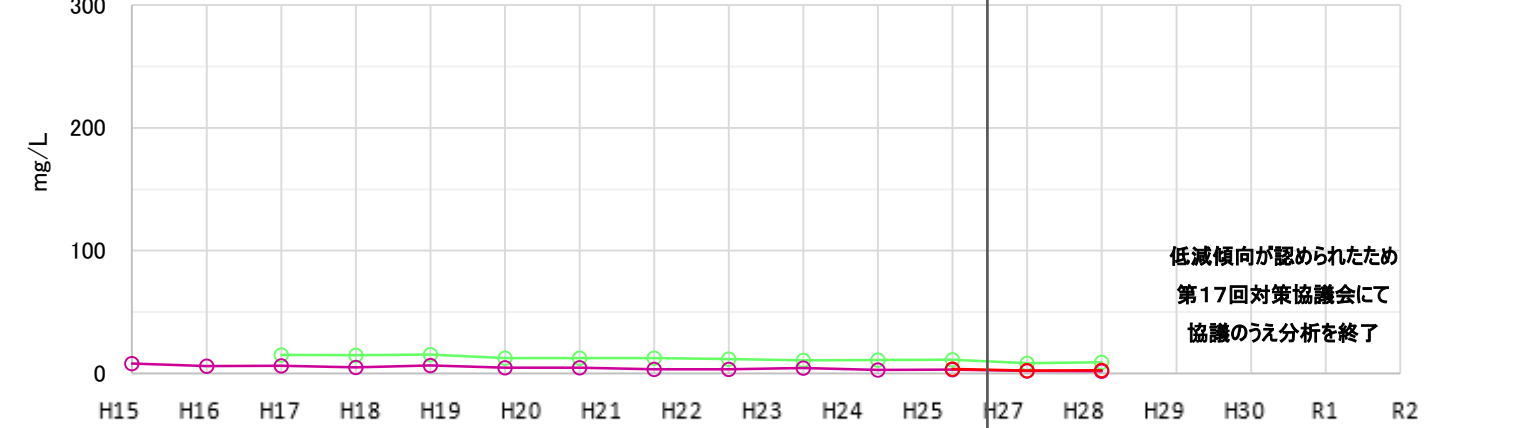
電気伝導率



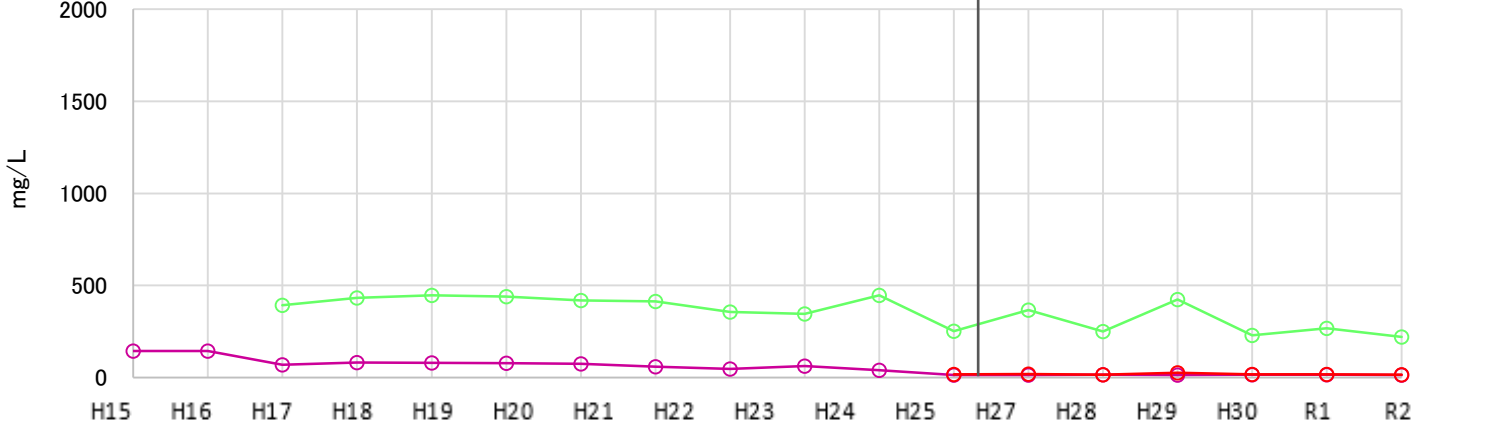
亜鉛



ナトリウム



硫酸イオン



アルミニウム

